

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月14日

【四半期会計期間】 第10期第2四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 株式会社Aiming

【英訳名】 Aiming Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 椎葉 忠志

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目27番5号 リンクスクエア新宿7階

【電話番号】 (03)6672-6159(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理グループゼネラルマネージャー 田村 紀貴

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目27番5号 リンクスクエア新宿7階

【電話番号】 (03)6672-6159(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理グループゼネラルマネージャー 田村 紀貴

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第9期 第2四半期 累計期間	第10期 第2四半期 累計期間	第9期
会計期間		自 2019年1月1日 至 2019年6月30日	自 2020年1月1日 至 2020年6月30日	自 2019年1月1日 至 2019年12月31日
売上高	(千円)	2,961,841	2,434,046	5,644,135
経常損失()	(千円)	384,725	188,358	875,007
四半期(当期)純損失()	(千円)	469,318	197,888	1,201,345
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	3,304,854	4,066,591	3,304,854
発行済株式総数	(株)	36,233,600	38,941,800	36,233,600
純資産額	(千円)	1,830,005	2,667,080	1,107,498
総資産額	(千円)	3,234,432	3,625,292	2,249,181
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ()	(円)	13.37	5.37	34.06
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			
自己資本比率	(%)	56.6	73.5	49.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	265,465	254,361	829,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,200	42,937	137,299
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	841,607	1,504,150	1,082,047
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,796,085	2,153,620	860,225

回次		第9期 第2四半期 会計期間	第10期 第2四半期 会計期間
会計期間		自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	14.63	1.12

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第2四半期累計期間まで継続して営業損失、経常損失、四半期（当期）純損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在しているものと認識しております。

当社は、当該状況を早期に解消又は改善すべく、以下の対応策の実施を進めております。

事業基盤の強化

『剣と魔法のログレス いにしへの女神』や『CARAVAN STORIES』などのサービス中タイトルについては、より効率的な運営体制を構築することで、収益改善を図ってまいります。

また、2020年7月16日に正式サービスを開始した、株式会社スクウェア・エニックスとの共同開発タイトル『ドラゴンクエストタクト』が、第3四半期以降に利益貢献することが見込まれております。

拠点の人員体制見直しによる費用の削減

当社は、当第2四半期累計期間において、サービス中タイトルの減少と開発中タイトルの本数を鑑み、台湾スタジオの従業員数の最適化を実施しました。また、2020年4月1日を効力発生日として、株式会社ドキドキグループワークスへ大阪スタジオを譲渡しており、第2四半期以降の人件費や拠点維持にかかる費用が削減されております。

引き続き、事業の状況に応じて、収益基盤と営業キャッシュ・フローの改善に取り組んでまいります。

財務基盤の安定化

財務面につきましては、当第2四半期累計期間において、第7回新株予約権の発行及び行使が行われ、1,689,051千円の資金を調達したことにより、手元資金の状況は改善されました。今後も市場の状況を鑑みながら同新株予約権の行使による調達を促していくとともに、必要に応じて他の資金調達方法も検討してまいります。

これらの改善策を適切に推進していくことから、継続企業の前提に重要な不確実性は認められないと判断しております。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動は停滞を余儀なくさせられ、先行きが見えない、厳しい状況が続きました。

このような状況の中、国内のスマートフォン向けオンラインゲーム市場は、成長率は鈍化しているものの、緩やかな拡大が続くものと予測されております。一方で、国内市場には、知名度の高いIP（Intellectual Propertyの略）を題材としたゲームや品質の高い海外企業のゲームが日本国内でサービスを行っており、競争の激化が続いております。また、スマートフォンのスペックや通信技術の向上により、お客様の求めるゲーム品質も上がっており、ゲームの開発期間は長期化し、開発費用も高騰しております。

当社におきましては、オンラインゲーム事業のさらなる成長及びシェアの拡大を目指し、サービス中タイトルの拡充と開発中タイトルの準備を進めてまいりました。

サービス中タイトルにつきましては、『剣と魔法のログレス いにしへの女神』において、有名IPとのコラボレーションに取り組んだほか、PlayStation®4版『CARAVAN STORIES』において、サービス開始1周年イベントを実施することで、アクティブユーザー数及び課金ユーザー数の改善に取り組みました。このほかに、オンラインゲーム制作/運営受託において、新規案件の獲得に取り組みました。

また、開発中タイトルにつきましては、2020年6月10日に、『ドラゴンクエストタクト』の事前登録を開始しました。

スマートフォン・PC版『CARAVAN STORIES』の売上高が減少したことに加えて、複数タイトルのサービス終了も影響し、売上高は前年同期に比べて減少しました。費用面においては、2020年4月1日に大阪スタジオを譲渡したこ

とに伴い、人件費やオフィス家賃を中心とした大阪スタジオ関連の費用が減少したほか、サービスタイトル数の減少に伴い広告宣伝費が減少した結果、営業利益は改善されました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,434百万円（前年同期比17.8%減）、営業損失は181百万円（前年同期は営業損失375百万円）、経常損失は188百万円（前年同期は経常損失384百万円）となり、四半期純損失は197百万円（前年同期は四半期純損失469百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産につきましては、前事業年度末に比べ1,376百万円増加し、3,625百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加1,293百万円、未収入金の増加179百万円によるものであります。

負債につきましては、前事業年度末に比べ183百万円減少し、958百万円となりました。これは主として、長期借入金（1年内含む）の減少249百万円によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べ1,559百万円増加し、2,667百万円となりました。これは主として、四半期純損失の計上等による利益剰余金の減少326百万円があったものの、資本金の増加761百万円及び資本剰余金の増加761百万円、自己株式の減少361百万円等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物は前事業年度より1,293百万円増加し、2,153百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によって減少した資金は254百万円となりました。これは主として、税引前四半期純損失188百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によって増加した資金は42百万円となりました。これは主として、敷金及び保証金の回収による収入46百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によって増加した資金は1,504百万円となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出249百万円があったものの、新株発行による収入1,516百万円、自己株式の処分による収入232百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における当社の研究開発活動の金額は、175,237千円であります。なお、当第2四半期累計期間における研究開発活動の状況の重要な変更はありません。

(6) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社の資金需要のうち主なものは、新規タイトルの開発や運営にかかる人件費や外注費、サービス提供・拡充のための広告費であります。

当社は、事業運営上、必要な資金の流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としており、これらの資金需要に対して、営業活動によるキャッシュ・フローや自己資金を充当することを基本とし、状況に応じて、金融機関からの借入れや各種資本政策等による資金調達で対応することとしております。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,941,800	39,411,800	東京証券取引所 マザーズ	単元株式数は100株であります。
計	38,941,800	39,411,800		

(注) 提出日現在発行数には、2020年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

当第2四半期会計期間において、行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る新株予約権が以下のとおり、行使されました。

第7回新株予約権（行使価額修正条項付）

	第2四半期会計期間 (2020年4月1日から2020年6月30日まで)
当該四半期会計期間に権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数(個)	17,948
当該四半期会計期間の権利行使に係る交付株式数(株)	1,794,800
当該四半期会計期間の権利行使に係る平均行使価額等(円)	669.9
当該四半期会計期間の権利行使に係る資金調達額(百万円)	1,202
当該四半期会計期間の末日における権利行使された当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の数の累計(個)	31,457
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の交付株式数(株)	3,145,700
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の平均行使価額等(円)	535.4
当該四半期会計期間の末日における当該行使価額修正条項付新株予約権付社債券等に係る累計の資金調達額(百万円)	1,684

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日 (注)	1,795,800	38,941,800	602,667	4,066,591	602,667	4,056,591

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(5) 【大株主の状況】

2020年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
椎葉 忠志	東京都渋谷区	5,555	14.26
IMAGE TECHNOLOGY INVESTMENT LIMITED (国内連絡先 TENCENT JAPAN 合同会社)	29/F., THREE PACIFIC PLACE, NO.1 QUEEN'S ROAD EAST, WANCHAI, HONG KONG (港区 虎ノ門一丁目23番1号 虎ノ門ヒルズ森タワー)	2,921	7.50
グロース・キャピタル株式会社	港区南青山三丁目8番40号 青山センタービル2階	2,600	6.67
インキュベイトファンド1号 投資事業有限責任組合	東京都港区赤坂一丁目12番32号	1,983	5.09
ディライトワークス株式会社	東京都目黒区青葉台三丁目6番28号	1,740	4.46
TOKAI TOKYO SECURITIES (ASIA) LIMITED (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	18TH FLOOR, 33 DES VOEUX ROAD CENTRAL, CENTRAL, HONG KONG (常任代理人住所 東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟)	1,266	3.25
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	693	1.78
YJ1号投資事業組合	東京都千代田区紀尾井町一丁目3番	666	1.71
楽天証券株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	566	1.45
武市 智行	東京都世田谷区	435	1.11
計	-	18,425	47.32

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,936,300	普通株式 389,363	株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 5,500		
発行済株式総数	38,941,800		
総株主の議決権		389,363	

【自己株式等】

当該事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第2四半期累計期間(2020年1月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	860,225	2,153,620
売掛金	643,113	541,781
仕掛品	76,098	198,679
コンテンツ	109,044	65,426
貯蔵品	258	261
その他	145,992	352,592
貸倒引当金	77	30
流動資産合計	1,834,655	3,312,330
固定資産		
有形固定資産	1,918	1,368
無形固定資産	481	
投資その他の資産		
敷金及び保証金	409,131	308,598
その他	2,994	2,994
投資その他の資産合計	412,126	311,593
固定資産合計	414,526	312,961
資産合計	2,249,181	3,625,292
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,325	145,370
1年内返済予定の長期借入金	375,180	125,220
未払金	283,575	255,726
未払法人税等	30,093	22,879
未払消費税等	74,073	36,087
賞与引当金		19,597
その他	240,369	219,322
流動負債合計	1,066,618	824,203
固定負債		
長期未払金	75,065	134,009
固定負債合計	75,065	134,009
負債合計	1,141,683	958,212

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,304,854	4,066,591
資本剰余金	3,294,854	4,056,591
利益剰余金	5,130,824	5,457,051
自己株式	361,386	
株主資本合計	1,107,498	2,666,131
新株予約権		948
純資産合計	1,107,498	2,667,080
負債純資産合計	2,249,181	3,625,292

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,961,841	2,434,046
売上原価	1,271,154	909,961
売上総利益	1,690,686	1,524,084
販売費及び一般管理費	1 2,066,049	1 1,705,365
営業損失()	375,363	181,281
営業外収益		
受取利息	141	124
受取手数料	626	785
補助金収入	3,682	
備品売却収入		1,617
その他	1,107	273
営業外収益合計	5,558	2,801
営業外費用		
支払利息	6,074	1,118
為替差損	5,053	5,399
株式交付費	3,525	3,359
その他	267	
営業外費用合計	14,920	9,878
経常損失()	384,725	188,358
特別利益		
新株予約権戻入益	14,400	
特別利益合計	14,400	
特別損失		
特別退職金	85,481	
特別損失合計	85,481	
税引前四半期純損失()	455,807	188,358
法人税、住民税及び事業税	13,511	9,530
法人税等合計	13,511	9,530
四半期純損失()	469,318	197,888

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	455,807	188,358
減価償却費	14,914	610
コンテンツ償却費	189,705	43,617
貸倒引当金の増減額(は減少)	339	47
賞与引当金の増減額(は減少)	40,464	19,597
新株予約権戻入益	14,400	
受取利息及び受取配当金	141	124
支払利息	6,074	1,118
補助金収入	3,682	
特別退職金	85,481	
売上債権の増減額(は増加)	337,903	101,332
たな卸資産の増減額(は増加)	155,090	122,446
仕入債務の増減額(は減少)	21,109	82,044
その他	270,454	140,135
小計	245,802	202,792
利息及び配当金の受取額	141	124
利息の支払額	5,775	940
補助金の受取額	3,682	
特別退職金の支払額		33,621
法人税等の支払額	17,711	17,132
営業活動によるキャッシュ・フロー	265,465	254,361
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	3,456	1,505
無形固定資産の取得による支出	283	
敷金及び保証金の差入による支出	6,179	606
敷金及び保証金の回収による収入	11,119	46,148
資産除去債務の履行による支出		6,744
事業譲渡による収入		5,645
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,200	42,937
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	746,457	1,516,105
長期借入金の返済による支出	1,588,560	249,960
新株予約権の発行による収入		5,730
自己株式の処分による収入	495	232,274
財務活動によるキャッシュ・フロー	841,607	1,504,150
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,862	667
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,111,734	1,293,394
現金及び現金同等物の期首残高	2,907,820	860,225
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,796,085	1 2,153,620

【注記事項】

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
給料手当	425,986 千円	326,356 千円
退職給付費用	8,700 "	5,334 "
賞与引当金繰入額	5,498 "	2,543 "
広告宣伝費	334,084 "	174,170 "
支払手数料	699,786 "	676,856 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
現金及び預金	1,796,085 千円	2,153,620 千円
現金及び現金同等物	1,796,085 千円	2,153,620 千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当社は、2019年2月1日付で、ディライトワークス株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。

この結果、当第2四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ374,991千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が3,304,854千円、資本剰余金が3,294,854千円となっております。

当第2四半期累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

当第2四半期累計期間において、新株予約権の権利行使による新株式の発行および自己株式の処分を行い、資本金および資本準備金がそれぞれ761,737千円増加し、自己株式が361,386千円減少しました。

その結果、当第2四半期会計期間末において、資本金が4,066,591千円、資本剰余金が4,056,591千円となり、当社の保有の自己株式はすべて処分いたしました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、オンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	13円37銭	5円37銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	469,318	197,888
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	469,318	197,888
普通株式の期中平均株式数(株)	35,080,702	36,831,158
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注)1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使による増資)

当社が2020年2月14日に発行いたしました第7回新株予約権の一部について、権利行使が行われております。

2020年7月1日から2020年8月13日までの新株予約権の行使の概要は以下のとおりであります。

(1) 行使された新株予約権の個数	4,700個
(2) 発行した株式の種類及び株式数	普通株式 470,000株
(3) 行使価額総額	342,033千円
(4) 増加した資本金の金額	171,373千円
(5) 増加した資本準備金の金額	171,373千円

(注) 上記の結果、普通株式の発行済株式総数は39,411,800株、資本金は4,237,965千円、資本準備金は4,227,965千円となっております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月12日

株式会社Aiming
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 轟 芳 英 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 出 健 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Aimingの2020年1月1日から2020年12月31日までの第10期事業年度の第2四半期会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第2四半期累計期間（2020年1月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社Aimingの2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社が2020年2月14日に発行した第7回新株予約権の一部について、権利行使が行われた。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。